

観光地域づくり法人形成・確立計画

記入日：令和 5 年 7 月 3 1 日

1. 観光地域づくり法人の組織

申請区分 ※該当するものを ○で囲むこと	広域連携DMO・地域連携DMO・ 地域DMO	
観光地域づくり法人の名称	(一社) 宮古島観光協会	
マネジメント・マーケティング対象とする区域	沖縄県宮古島市	
所在地	沖縄県宮古島市下地字上地472番地39	
設立時期	1964年7月1日(社団法人)(2014年4月1日 一般社団法人化)	
事業年度	4月1日から翌年3月31日までの1年間	
職員数	11人【常勤4人(正職員4人・出向等0人)、非常勤7人】	
代表者(トップ人材：法人の取組について対外的に最終的に責任を負う者) ※必ず記入すること	吉井 良介 (出身組織) 宮古島東急ホテル&リゾート	宮古島東急ホテル&リゾートの開業スタッフ、支配人、総支配人を経て、2021年10月よりシニアディレクター。観光協会では青年部長、理事、副会長を歴任し、2021年6月、会長に就任。38年の長きに渡り宮古島観光の最前線で活躍している。
データ分析に基づいたマーケティングに関する責任者(CMO：チーフ・マーケティング・オフィサー) ※必ず記入すること	平山 茂治「専従」 (出身組織) 宮古島市	県内金融機関勤務を経て、伊良部町(現・宮古島市)採用。市交流推進課長として「全日本トライアスロン宮古島」などのイベント企画実施に携わったほか、観光商工部次長などを歴任。2020年8月、協会専務理事に就任。
財務責任者(CFO：チーフ・フィナンシャル・オフィサー) ※必ず記入すること	川満 正寛「専従」 (出身組織) (一社)宮古島観光協会	市内ホテル勤務を経て、2017年6月、宮古島観光協会事務局採用。2021年6月より事務局長。国内各地でのプロモーションや修学旅行などの受入などに従事してきたほか、県や市との協議調整、協会財務運営なども担当。
各部門(戦略委員会)の責任者(専門人材)	砂川 靖夫 (出身組織名) (株)ホテル共和(ホテルフイオマーレ)	ホテル共和で38年に渡り勤務。2008年からは同社社長、宮古島観光協会副会長を務めるほか、県食品衛生協会宮古支部長、宮古島海中公園代表、市内音楽イベント実行委員長など観光・飲食関係を中心に多数の公職を務める。2023年6月、戦略委員長就任。

連携する地方公共団体の担当部署名及び役割	沖縄県宮古島市 観光商工部観光商工課（観光振興、まちづくり）				
連携する事業者名及び役割	<ul style="list-style-type: none"> ・宮古島商工会議所、伊良部商工会（物産・販売） ・宮古島美ら海連絡協議会（マリンアクティビティ事業者）（マリンアクティビティ） ・宮古島漁業協同組合、池間漁業協同組合、伊良部漁業協同組合（マリン、物産） ・宮古島調理師会、沖縄県飲食業組合宮古支部（飲食） ・宮古タクシー事業協同組合、協栄バス、八千代バス、中央交通、オリックスレンタカー宮古島、OTS レンタカー等（二次交通） ・日本トランスオーシャン航空、全日空、スカイマークエアラインズ、ジェットスタージャパン、宮古空港ターミナル、下地島エアポートマネジメント（島外アクセス） ・宮古島警察署、宮古島市消防本部、宮古島海上保安部、宮古地区医師会、県立宮古病院（安全安心） 				
官民・産業間・地域間との持続可能な連携を図るための合意形成の仕組み	<p>【該当する登録要件】</p> <p>要件②観光地域づくり法人が主導して行政や関係団体をメンバーとするワーキンググループなどの委員会等を設置</p> <p>各種観光事業者に加え、行政（宮古島市）、経済（宮古島商工会議所・伊良部商工会）、農業、漁業、物産販売、自然環境、情報、文化、スポーツなどの関係者からなる「戦略委員会」を設置。（文化、スポーツは今後参画予定）</p>				
地域住民に対する観光地域づくりに関する意識啓発・参画促進の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・宮古島市議会との定期的な「観光政策意見交換会」開催（年1回以上） ・市民、市内各地自治会役員等との宮古島観光に関する意見交換会開催（年1回以上） 				
法人のこれまでの活動実績	<p>【活動の概要】</p> <table border="1" data-bbox="432 1283 1406 2024"> <thead> <tr> <th data-bbox="432 1283 619 1335">事業</th> <th data-bbox="619 1283 1406 1335">実施概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="432 1335 619 2024">情報発信・プロモーション</td> <td data-bbox="619 1335 1406 2024"> <ul style="list-style-type: none"> ・「情報集約・発信」分科会において、2021年度に議論した観光情報集約・発信に関する課題認識に基づき、2022年度は観光協会WEBサイトの一新に取り組み、2023年1月、新サイト「Meets More MIYAKOJIMA」をスタートさせた。 ・サイト一新に当たっては、観光庁「サステナブルな観光コンテンツ強化モデル事業」のコーチングも受け、市民、観光客、観光事業者の意識変容促進を目指し、サイト内に「島を守る」ページを新設。同じく2022年度に策定した「宮古島サステナブルツーリズムガイドライン」（後述）の発信も開始した。いわゆる観光情報だけでなく、島が抱える課題や歴史・文化などの発信を進めていく。 ・誘客プロモーション ・コロナ禍からの需要回復を目指し、直行便就航4地区（首都圏/関西/名古屋/福岡）での誘客イベントに参加したほか、TV、YouTube番組とのタイアップ企画も展開した。 ・観光感謝祭開催 ・従来の首都圏・関西地区での旅行会社訪問セールスおよび懇親会隔年開催方式を、2021年度から各地旅行会社の企 </td> </tr> </tbody> </table>	事業	実施概要	情報発信・プロモーション	<ul style="list-style-type: none"> ・「情報集約・発信」分科会において、2021年度に議論した観光情報集約・発信に関する課題認識に基づき、2022年度は観光協会WEBサイトの一新に取り組み、2023年1月、新サイト「Meets More MIYAKOJIMA」をスタートさせた。 ・サイト一新に当たっては、観光庁「サステナブルな観光コンテンツ強化モデル事業」のコーチングも受け、市民、観光客、観光事業者の意識変容促進を目指し、サイト内に「島を守る」ページを新設。同じく2022年度に策定した「宮古島サステナブルツーリズムガイドライン」（後述）の発信も開始した。いわゆる観光情報だけでなく、島が抱える課題や歴史・文化などの発信を進めていく。 ・誘客プロモーション ・コロナ禍からの需要回復を目指し、直行便就航4地区（首都圏/関西/名古屋/福岡）での誘客イベントに参加したほか、TV、YouTube番組とのタイアップ企画も展開した。 ・観光感謝祭開催 ・従来の首都圏・関西地区での旅行会社訪問セールスおよび懇親会隔年開催方式を、2021年度から各地旅行会社の企
事業	実施概要				
情報発信・プロモーション	<ul style="list-style-type: none"> ・「情報集約・発信」分科会において、2021年度に議論した観光情報集約・発信に関する課題認識に基づき、2022年度は観光協会WEBサイトの一新に取り組み、2023年1月、新サイト「Meets More MIYAKOJIMA」をスタートさせた。 ・サイト一新に当たっては、観光庁「サステナブルな観光コンテンツ強化モデル事業」のコーチングも受け、市民、観光客、観光事業者の意識変容促進を目指し、サイト内に「島を守る」ページを新設。同じく2022年度に策定した「宮古島サステナブルツーリズムガイドライン」（後述）の発信も開始した。いわゆる観光情報だけでなく、島が抱える課題や歴史・文化などの発信を進めていく。 ・誘客プロモーション ・コロナ禍からの需要回復を目指し、直行便就航4地区（首都圏/関西/名古屋/福岡）での誘客イベントに参加したほか、TV、YouTube番組とのタイアップ企画も展開した。 ・観光感謝祭開催 ・従来の首都圏・関西地区での旅行会社訪問セールスおよび懇親会隔年開催方式を、2021年度から各地旅行会社の企 				

		画・仕入担当を宮古島へ招聘し、商談会と現地視察を組む方式に変更した。2022年度は旅行28社、航空3社の50名が来島し、市内25社との商談、37社との情報交換を行った。
	受入環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・「サステナブルツーリズムガイドライン」策定 2022年5月、戦略委員会「自然環境」分科会を事務局とする「宮古島サステナブルツーリズム連絡会」を発足。宮古島市、沖縄県（環境部）、国（環境省）、警察、海上保安部、漁協、マリンアクティビティ事業者団体の参加を得て、宮古島観光の安全安心向上、自然環境と観光の両立、持続性向上に向けた取り組みを進め、2023年2月、市民、観光客、観光事業者を対象とする「宮古島サステナブルツーリズムガイドライン」を決定、発表した。 ・多言語対応強化 2022年度は、次年度の海外クルーズ入港再開に向け、インバウンド用観光マップの多言語データ（日英簡繁）と動画データを市と共有した。 ・観光庁「地域一体となった観光地高付加価値化事業」 当協会が取りまとめ役となり、2022年度は市内宿泊事業者10社13施設の施設改修を実施した（総事業費596百万円、補助額295百万円）。
	観光資源の磨き上げ	<ul style="list-style-type: none"> ・2022年度、観光庁「サステナブルな観光コンテンツ強化モデル事業」のコーチングを受け、以下のコンテンツ造成、調査を行った。 <ul style="list-style-type: none"> ①重要無形文化財・伝統工芸品「宮古上布」コンテンツ ②文化財「宮古馬」コンテンツ ③繁閑期解消・地産地消促進のための「島野菜」食品分析 ・地産地消ブランド構築に向けた調査検討 2022年度、宮古島市「地産地消ブランド制度検討等事業」を受託し、戦略委員会「6次産業化」分科会にて調査検討を行った。
<p>【定量的な評価】</p> <p>コロナ以前（2018～2019年度）は、年間1億円強の協会運営費に対し、601～636億円の観光消費があったが、2020～21年度は新型コロナウイルス感染症緊急対策事業等により運営費が1.3～1.9億円(*)に増える一方、観光消費はコロナ禍の影響を受け341～424億円まで落ち込んだ。</p> <p>コロナ禍からの需要回復に取り組んだ2022年度は、一部コロナ緊急対策事業の終了等もあり運営費が1.6億円(*)となったに対し、観光消費は主に国内空路客数がコロナ前水準まで回復したことに加え、平均泊数、消費単価も伸びたため、過去最高の779億円となった。</p> <p>*) 本項において、21年度以降の協会運営費はふるさと納税関連経費を除いた額を記載。</p>		

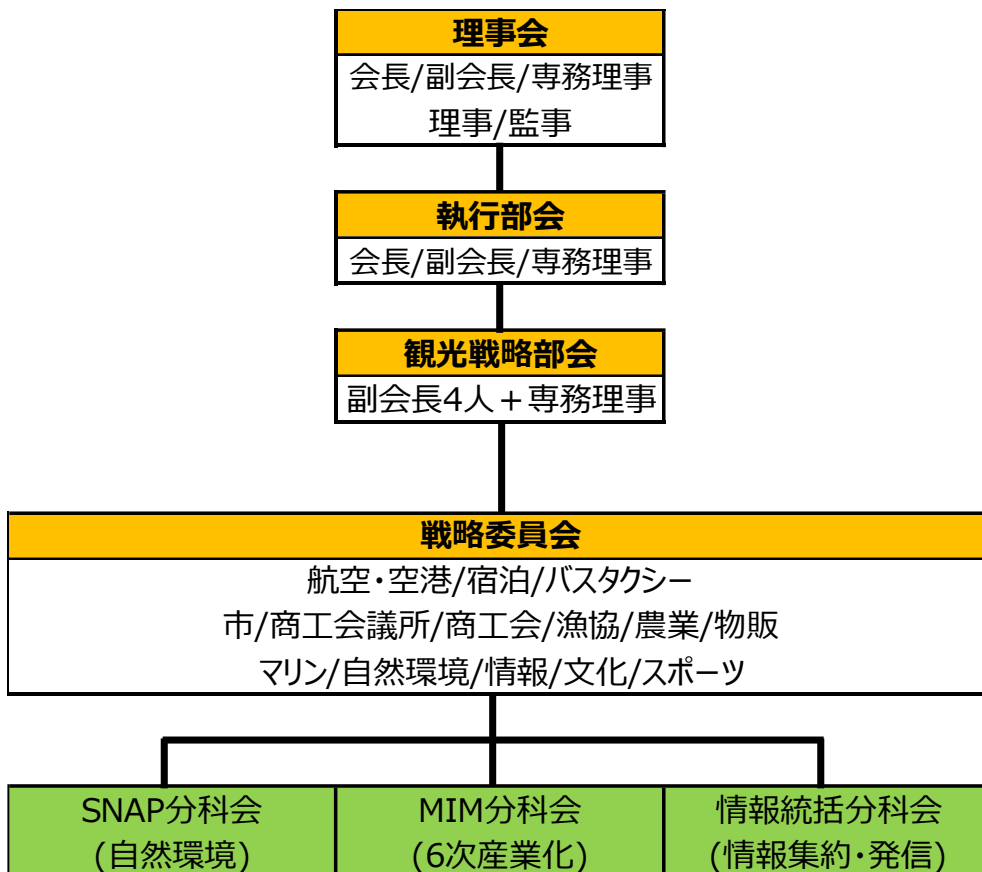
実施体制

※地域の関係者との連携体制及び地域における合意形成の仕組みが分かる図表等を必ず記入すること（別添可）。

【実施体制の概要】

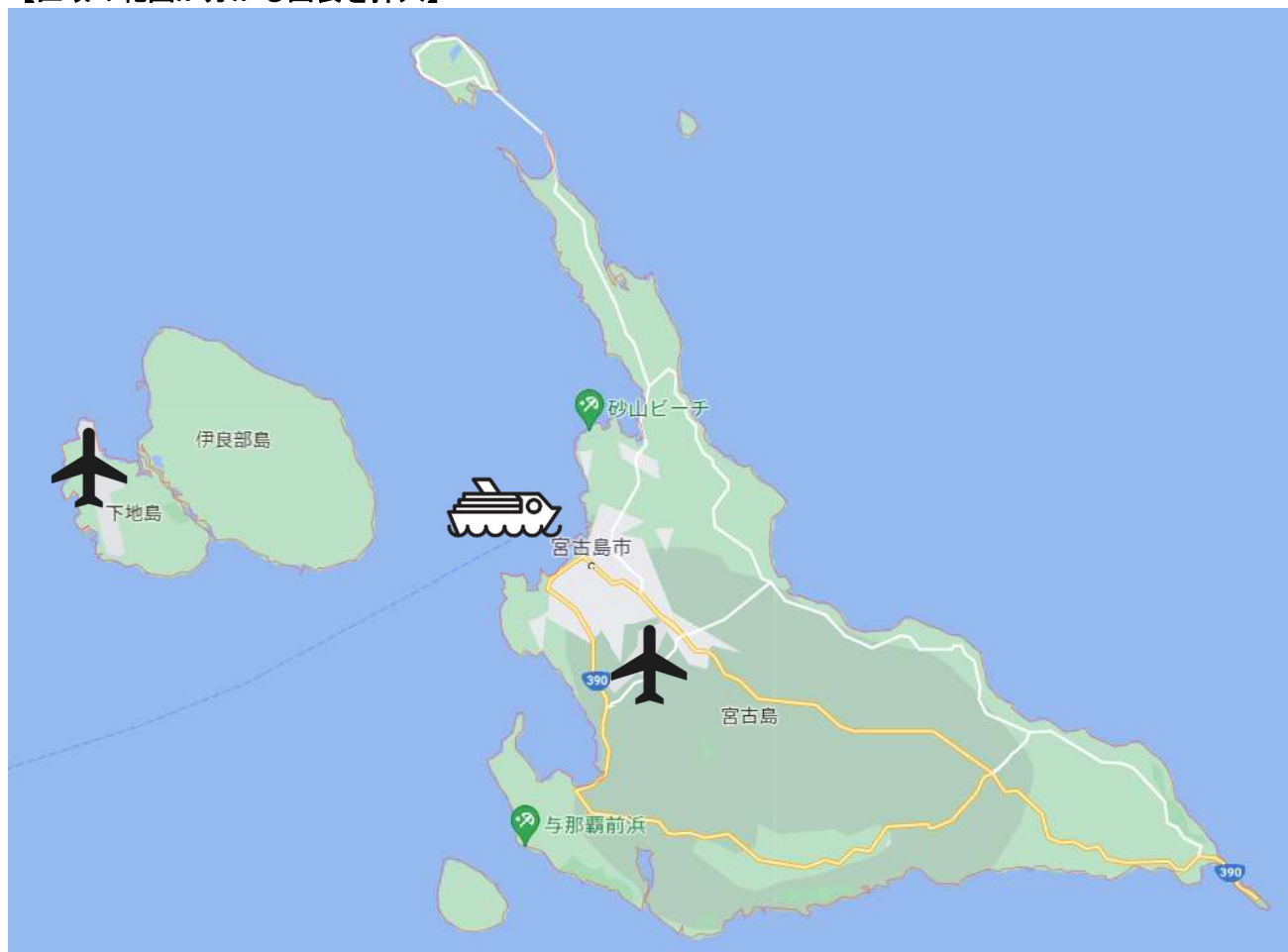
（一社）宮古島観光協会の中に、各種観光事業者（協会理事等）、行政、経済、農業、漁業、物産販売、自然環境、情報、文化、スポーツなどの多様な関係者が参画する「戦略委員会」を設置し、公民連携の下で運営を行う。戦略委員会には、時々重点取り組みテーマに応じた「分科会」を設置する。（下記分科会は2021年4月時点。文化、スポーツ分野の参画は今後。）

【実施体制図】



2. 観光地域づくり法人がマネジメント・マーケティングする区域

【区域の範囲が分かる図表を挿入】



【区域設定の考え方】

宮古島市は、宮古島を中心に大小6つの有人島からなる自治体であり、うち5島は橋でつながっている。他の自治体とは海で大きく隔てられており、市単体での区域設定とするのが適切である。

【観光客の実態等】

入域観光客数は長らく年間40万人前後で推移していたが、宮古島と伊良部島をつなぐ「伊良部大橋」(3,540m)が開通した2015年以降、急激に増加した。国際クルーズ船の寄港開始、市内第2の空港である下地島空港の国内定期路線再開、圏域初の国際線となる香港＝下地島線の就航などもあり、2018～2019年度は2年連続で100万人を突破した。コロナ前の2019年度国内空路客平均泊数は2.63泊、空路客・海路客を合わせた観光収入は600億円を超えると試算されている。

【観光資源：観光施設、商業施設、自然、文化、スポーツ、イベント等】

(別紙参照) * 「第2次宮古島市観光振興基本計画」(2019年3月 宮古島市) p.7-11

世界に誇る「宮古ブルー」の美しい海と珊瑚礁、ビーチ、広い空を軸に、海の上を走る3つの大橋、各種マリナクティビティを通じて、素晴らしい自然景観を楽しみ心を解き放つことができる。

18ホールを有するゴルフ場が3ヶ所あるほか、30年以上の歴史がある「全日本トライアスロン宮古島大会」や100kmマラソン、ビーチバレーなどのスポーツイベント、初夏の野外音楽イベント「宮古島ロックフェスティバル」など、多彩な楽しみ方が可能である。冬場には、南の温暖な気候を活かし、実業団や大学、高校などのスポーツ合宿も盛んに行われている。

宮古島市は沖縄県内随一の農業産出額を誇る農業の島でもあり、マンゴーやパッションフルーツなどの果実、ゴーヤーなどの野菜、宮古牛など、宮古島ならではの食を味わうこともできる。

【宿泊施設：域内分布、施設数、収容力、施設規模等】

種別	軒数	客室数	収容人数
ホテル・旅館	104	4,335	10,736
民宿	49	234	601
ペンション・貸別荘	234	869	3,134
ドミトリー・ゲストハウス	51	306	845
ウィークリーマンション	15	147	368
団体経営施設	3	17	186
計	456	5,908	15,870

(沖縄県観光政策課「令和4年宿泊実態調査結果」2022(令和4)年12月31日現在)

【利便性：区域までの交通、域内交通】

1) 宮古島へのアクセス

種別	着地	発地	就航会社
国内線	宮古空港	羽田 中部 関西 福岡 那覇 多良間 石垣	JAL/ANA JTA(季節運航)/ANA JTA/ANA ANA(季節運航) JTA/RAC/ANA RAC RAC
	下地島空港	羽田 成田 神戸 福岡 那覇	SKY JJP(季節運航) SKY SKY(季節運航) SKY
国際線	下地島空港	香港	香港エクスプレス(運休中)
国際クルーズ船	平良港	台湾・中国等	
国内航路	平良港	多良間	フェリーたらまⅢ

2) 域内交通

種別	内容
空港バス	下地島空港～平良市街地～宮古空港～宮古島リゾートエリア
ループバス	島内主要観光地を巡回(期間限定実証運行中)
路線バス	3社8系統
タクシー	15社186台(2022年3月末現在) (沖縄総合事務局運輸部「業務概況」令和4年版)
レンタカー	145社3,074台(2022年3月現在)※乗用のみ台数 (沖縄総合事務局運輸部「業務概況」令和4年版)
航路	島尻港～大神島

【外国人観光客への対応】

- ・多言語対応パンフレット制作
- ・沖縄県「多言語コンタクトセンター」活用促進
- ・宮古島市「多言語対応支援事業」(外国語メニュー/POP作成)

3. 各種データ等の継続的な収集・分析

収集するデータ	収集の目的	収集方法
観光入域客数	観光需要の動向を把握するため。	宮古島市観光商工課
ホテル稼働率	宿泊施設の需給状況を把握するため。	市内主要 15 ホテルを対象とした自主調査および沖縄県観光政策課「宿泊施設実態調査」
のべ宿泊者数	宿泊者数の推移を把握するため。	沖縄県観光政策課 「観光統計実態調査」
平均宿泊数	(同上)	
観光消費額	来訪者の消費活動の動向を分析し、消費単価向上に繋げるため。	
観光客満足度	来訪者の満足(不満足)に繋がっている要因を分析し、戦略立案に繋げるため。	
リピーター率	リピーター顧客の動向を把握し、戦略立案に繋げるため。	
WEBサイトのアクセス状況	地域に対する顧客の関心度や施策の効果等を把握するため。	WEB サイト管理画面
観光に対する住民理解度	観光振興に対する地域住民の理解度を測るため。	沖縄県観光政策課 「沖縄観光に関する県民意識の調査」

4. 戦略

(1) 地域における観光を取り巻く背景

宮古島市では2015年以降、観光客数は5年で倍増した。急激な増加は、「オーバーツーリズム」の状況を生み出し、生活圏での観光客増加による住民の疲弊、レンタカー事故の増加、ホテル・住宅建設ラッシュによる建設費や家賃の高騰などの課題を引き起こした。また、相次ぐ島外資本の参入により（ホテル、飲食等）、600億円を超える観光収入が島に滞留せず、島外に流失しているのではないかと懸念もある。

2020年に入り、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、足下は大きな打撃を受けているが、終息後に再び同様の状況を生み出さないよう、「量から質へ」「島を豊かにする観光」「持続可能な観光」の実現をめざし、長期的に各種施策に取り組む必要がある。

(2) 地域の強みと弱み

	好影響	悪影響
内部環境	<p>①内部環境－強み</p> <ul style="list-style-type: none"> 海をはじめとする素晴らしい自然・気候 *海:「空・海中～海面～砂浜～植生・後背地」一帯 豊かな農水産物 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> 独自の文化、島人の気質、穏やかな時の流れ アクセス（2つの空港/1つのクルーズバス） 宿泊キャパシティ増（ホテル新設・増室） 域内移動の利便性（3つの架橋・ほどよい広さ） 	<p>②内部環境－弱み(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 自然環境の悪化（珊瑚の減少） 海頼みだが、貴重な資源を守る動きが弱い 短期的な開発が先行（ルールづくり/メンテナンス） 美しくない景観（市街地、電柱、漂着ゴミ/不法投棄） ゾーニングの弱さ（騒げるエリアがない） 需要の季節波動が大きい（冬はすることがない） 悪天候時に何もできない、物流・食材にも影響 観光と農漁業との横連携の薄さ <hr/> <ul style="list-style-type: none"> 観光による利益が地域に還元・滞留していない サービス/人材/景観/食/ゴミ/悪天対応などの水準 人材不足（労働条件・環境、家賃、育成） あいまいなルール（暗黙の了解が多い） あいまいな「宮古らしさ」（ブランディングの不足） 「エコアイランド」の明確化、浸透が必要 観光業が住民に十分理解されていない 域内交通（レンタカー事故、交通弱者対応） 脆弱な通信環境 安全安心（治安の悪化、脆弱な医療体制） マーケティングに基づく誘客ができていない
外部環境	<p>③外部環境－チャンス（機会）</p> <ul style="list-style-type: none"> 観光需要の増加 成長著しい東アジア/東南アジアとの近さ <hr/> <ul style="list-style-type: none"> 農水産物の移輸出可能性 外資/島外資本の参入（島への共感） ESG投資(経営)の波 	<p>④外部環境－脅威</p> <ul style="list-style-type: none"> 国内人口減少 オーバーツーリズム再来 国内外のビーチリゾートとの競合 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> 外資/島外資本の参入 国境をめぐる国際情勢（尖閣など）

(3) ターゲット

<p>○第1ターゲット層 自然環境の保全・再生、島の持続性に対する感度の高い首都圏の20～30代女性</p>
<p>○選定の理由 「閉じられた空間」である離島において、自然環境の保全・再生は喫緊の課題であり、また、観光と日常生活の共生を進め、宮古島観光の持続性を確立するためにも、自然環境の保全・再生、島の持続性や生活に対する理解、関心の高い観光客を増やしていくことは極めて重要となっている。 国内におけるサステナブルな購買行動に関する調査において、社会・環境問題に対する危機感や当事者意識は相対的に女性の方が高いが、うち20～30代では、そのために自分は何をすれば良いかわからないとの回答も目立つことから（博報堂「生活者のサステナブル購買行動調査2021」）、島で過ごすことが自身のリフレッシュに加えて、社会・環境問題の緩和・改善にもつながるような環境づくりを進め、ひいては自身の精神的な豊かさ向上につながる旅の形を提案して行くことで、観光を通じた島の課題緩和・改善も進めることを目指す。 宮古島の持続的発展を推進する宮古島市「エコアイランド宮古島構想」の方向性にも合致する。</p> <p>○取組方針 島側においては、自然環境保全・再生の取り組みを進めるとともに、島の持続性や生活に対する理解促進を図るための情報発信を強化する。また、自然に負荷をかけない形で親しんで頂くためのルール作りやプログラム開発を進める。 対象顧客層に対しては、観光客アンケートなどの分析を進めるとともに、環境保全・再生に対する感度の高い読者、フォロワーを抱える媒体とも連携し、宮古島情報の発信を進める。</p>
<p>○第2ターゲット層 首都圏在住の夫婦（50～60代）</p>
<p>○選定の理由 現在（2019年度まで）の宮古島観光のボリュームゾーンであり（沖縄県「令和元年度観光統計実態調査」）、引き続き、注力すべき基本ターゲット層である。</p> <p>○取組方針 「大人のデスティネーション」としての宮古島情報の発信を継続する。</p>
<p>○第3ターゲット層 国内の修学旅行および学生・実業団等のスポーツ合宿</p>
<p>○選定の理由 首都圏および関西圏から来島する中高修学旅行は68校13,000人（2020年度当初予約）に上っている。また、冬場の温暖な気候を活かした学生や実業団などのスポーツキャンプも野球を中心に多数受入を行っている。</p> <p>○取組方針 現状はコロナで中止を余儀なくされている修学旅行、スポーツ合宿について、コロナ後を見据えた環境整備や再開商談を進める。スポーツ合宿については、「スポーツ合宿等受け入れワンストップ窓口」を担う宮古島市スポーツ協会とも連携して取り組む。</p>
<p>○第4ターゲット層 東アジア（台湾/香港/中国/韓国）の中間層</p>
<p>○選定の理由 コロナ後を見据え、近隣アジア諸国・地域の旺盛な旅行需要の誘致を宮古島観光の成長につなげる。</p> <p>○取組方針 各地区の航空会社に対し、国際線に対応している下地島空港への路線再開・誘致セールスに取り組む。この場合も、いたずらに数を追うのではなく、宮古島観光のコンセプトに共感が得られるマーケティングに取り組む。</p>

(4) 観光地域づくりのコンセプト

①コンセプト	<p style="text-align: center;">「千年先の、未来へ。」 ～ 宮古ブルーの海をいつまでも ～ ～ 島に根差した観光の実現 ～</p> <p>宮古島市が推進する「エコアイランド宮古島」構想のコンセプト「千年先の、未来へ。」をキーコンセプトとし、観光を通じた「持続可能な宮古島」の実現に取り組む。</p> <p><市民のみなさまに向けて> 「量から質へ」「島を豊かにする観光」「持続可能な観光」の実現</p> <p><観光客のみなさまに向けて> 心を解き放ち、再生する場の創出 島の自然や生活に理解ある宮古島ファンの拡大</p>
②コンセプトの考え方	<p>まずは、①観光があることにより、島や島に住む人々が経済的にも精神的にも豊かさを感じられる持続的な地域づくりを大前提として、受入体制の整備や誘客活動を進めることで、②観光客のみなさまにも豊かな時を過ごしていただける環境を提供する。【「観光客主体」から「島主体」の観光地経営への転換】</p> <p><市民のみなさまに向けて></p> <ul style="list-style-type: none"> ・島の生活に理解ある観光客、観光事業者を増やすとともに、6次産業化などを通じて観光収入の島内滞留を進め、観光があることで島が豊かになっていると市民が実感できる状況を創出する。 ・「海中～ビーチ～後背地の林～島内の緑～地下水～大きく広がる空」を一体のものにとらえ、島を形作る自然・景観を守る取り組みを進めるとともに、こどもたちに島の自然や歴史・文化を伝え、体験してもらうことにより、島への自信、誇りを育て、「いずれ帰って来る島」にしていく。 <p><観光客のみなさまに向けて></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「宮古ブルー」とも称される美しい海、海中に広がるサンゴ礁、真っ白なビーチ、平坦な地形ゆえ自らが世界の中心にいるようにすら感じられる大きく広がる空、ゆったりと流れる時間に身を任せ、心を解き放つ、心身ともにリフレッシュし、自分を取り戻す場としての宮古島を創出する。 ・合わせて、島で過ごすことが、社会・環境問題の緩和・改善につながるような環境整備（ルール作りと発信、収益の島内滞留の仕組み作りと環境保全・再生への投資推進など）を進め、ひいては自身の精神的な豊かさ向上につながる旅の形を提案することで、宮古島へ行く理由を明確にお持ちいただく。 ・一定程度の都市性、利便性は維持しつつも、島の良さである手つかずの自然・海岸線、島の人々の気質から来る素朴さ、落ち着ける「地元感」も維持し、「観光地化」の進行を抑えたまちづくりに取り組む。 ・観光客の属性に応じた島の情報発信を強化し、島を離れている間も島とつながっている感覚をお持ちいただく。

5. 関係者が実施する観光関連事業と戦略との整合性に関する調整・仕組み作り、プロモーション

項目	概要
戦略の多様な関係者との共有 ※頻度が分かるよう記入すること。	戦略委員会を4ヶ月に1度程度の頻度で開催し、計画・進捗の共有を図る。合わせて協会 WEB サイトにも情報を掲載する。 DMO 活動の内容・成果、KPI 達成状況、地域経済・社会の変化の分析等を記載した事業報告書を年1回作成し、戦略委員会、協会理事会・総会等で説明を行うとともに、協会 WEB サイトで公表する。
観光客に提供するサービスについて、維持・向上・評価する仕組みや体制の構築	1) 地域全体 「日本版持続可能な観光ガイドライン」(JSTS-D) に基づく自己点検を行い、戦略委員会において共有、必要な施策の方向性について議論を行う。 2) 安全の確保、自然との共生 協会とマリンアクティビティ事業者団体、市、警察、海上保安部などから成る「サステナブルツーリズム連絡会」(仮)を設置し、海の安全、自然環境に配慮した観光の実現を目指したガイドラインの設定、運用を行う。
観光客に対する地域一体となった戦略に基づく一元的な情報発信・プロモーション	観光協会 WEB サイトの改修、SNS 連携を進め、閲覧者の属性に応じた情報提供をめざすとともに、情報発信体制の整備を進める。 また、宮古島の産品に関する情報の発信、ふるさと納税の案内などにより、実質的な宮古島ファンクラブの形成を進める。

6. KPI（実績・目標）

※戦略や個別の取組を定期的に確認・改善するため、少なくとも今後3年間における明確な数値目標を記入すること。

※既に指標となりうる数値目標を設定している場合には、最大で過去3年間の実績も記入すること。

（1）必須KPI

指標項目		2020 (R2) 年度	2021 (R3) 年度	2022 (R4) 年度	2023 (R5) 年度	2024 (R6) 年度	2025 (R7) 年度
●旅行消費額 (百万円)	目標			47,060 ()	89,168 ()	117,850 ()	150,051 ()
	実績	34,190 (---)	42,419 (---)	77,996 (---)			
●延べ宿泊者数 (千人)	目標			1,463 ()	2,531 ()	3,037 ()	3,644 ()
	実績	1,018 (---)	1,245 (---)	2,137 (---)			
●来訪者満足度 (%)	目標			62% ()	68% ()	68% ()	68% ()
	実績	62% (---)	67% (---)	68% (---)			
●リピーター率 (%)	目標			43% ()	46% ()	46% ()	46% ()
	実績	43% (---)	54% (---)	46% (---)			

※2022年度実績の斜体下線値は主に、沖縄県「観光統計実態調査」等の暫定値を使用。

※括弧内は、訪日外国人旅行者に関する数値。コロナ禍の影響により国際線再開時期が見通せないため、当面目標設定は行わない。

目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

【検討の経緯】

KPI 設定にあたっては、宮古島の「第2次観光振興基本計画」（2019年3月策定）をベースにしつつ、観光協会戦略委員会において現在の観光を取り巻く課題なども踏まえ議論、確認を行った。

22年度はコロナ前水準への回復途上、23年度からは国内空路完全回復、海外クルーズ船漸増とし、国際空路は24年度から順次再開と想定した。

【設定にあたっての考え方】

- 旅行消費額 直近3年間平均（クルーズ船はコロナ前）単価を使用して算定した。
- 延べ宿泊者数 直近3年間平均の平均泊数を使用して算定した。
- 来訪者満足度 直近実績67%を維持するものとした。
- リピーター率 総来訪者数の増加を見込む中では新規需要の開拓も進める必要があることから、リピーター率は維持するものとした。

(2) その他の目標

指標項目		2020 (R2) 年度	2021 (R3) 年度	2022 (R4) 年度	2023 (R5) 年度	2024 (R6) 年度	2025 (R7) 年度
●宿泊施設の稼働率(客室定員ベース)(%)	目標			29% ()	40% ()	45% ()	52% ()
	実績	22% ()	23% ()	37% ()			
●観光に対する住民理解度(%)	目標			50% ()	55% ()	58% ()	60% ()
	実績	--- ()	56% ()	52% ()			
●観光協会ウェブサイトアクセス数(件)	目標			--- ()	419,000 ()	503,000 ()	604,000 ()
	実績	229,737 ()	217,815 ()	335,132 ()			

※2022年度実績の斜体下線値は主に、沖縄県「観光統計実態調査」等の暫定値を使用。

※括弧内は、訪日外国人旅行者に関する数値。コロナ禍の影響により国際線再開時期が見通せないため、当面目標設定は行わない。

指標項目及び目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

【検討の経緯】

【設定にあたっての考え方】

●宿泊施設の稼働率

新規ホテルの開業状況(宿泊キャパシティ増)も考慮しつつ、コロナ前水準への段階的な回復を目指す見通しとした。なお、稼働率は客室定員に対する宿泊客数の割合(客室定員ベース)で算出するため、いわゆる客室稼働率よりは数ポイント~10ポイント程度低くなる(例:定員3名の部屋に2名で宿泊した場合、定員ベース稼働率は2名÷3名=67%となるが、いわゆる客室稼働率は1室÷1室=100%となる)。いわゆる客室稼働率については別途、市内15ホテルの協力を得て主要ホテル実績も把握しているが、市全域をカバーするものではないため目標値としては置かない。

●観光に対する住民理解度

国内外からの観光客数増を見込む中でも、各種取り組みを通じて段階的な引き上げを目指すものとする。

●観光協会ウェブサイトアクセス数

観光情報の適切な発信、サステイナブルツーリズムの推進などを目的に、2023年1月に新サイトを立ち上げた。当面日本語のみの対応のため、日本人観光客数見通しに連動して伸びるものとした。

7. 活動に係る運営費の額及び調達方法の見通し

(1) 収入

年度	総収入	内訳	
2020(R2)年度 実績	123,250,496 (円)	【市からの補助金】	13,123,657
		【国からの受託事業】	0
		【県からの受託事業】	20,956,830
		【市からの受託事業】	65,710,189
		【公物管理受託】	0
		【収益事業】	7,663,312
		【会費】	15,515,000
		【雑収益】	281,508
		【特定財源】	0
2021(R3)年度 実績	501,135,115 (円)	【市からの補助金】	800,000
		【国からの受託事業】	2,000,000
		【県からの受託事業】	22,115,478
		【市からの受託事業】	451,645,315
		【公物管理受託】	0
		【収益事業】	4,330,751
		【会費】	19,939,000
		【雑収益】	304,571
		【特定財源】	0
2022(R4)年度 実績	527,416,354 (円)	【市からの補助金】	0
		【国からの受託事業】	19,642,212
		【県からの受託事業】	32,574,547
		【市からの受託事業】	445,476,429
		【公物管理受託】	0
		【収益事業】	3,444,596
		【会費】	20,470,000
		【雑収益】	5,808,570
		【特定財源】	0
2023(R5)年度 想定	552,242,000 (円)	【市からの補助金】	0
		【国からの受託事業】	7,500,000
		【県からの受託事業】	18,000,000
		【市からの受託事業】	499,482,000
		【公物管理受託】	0
		【収益事業】	5,490,000
		【会費】	21,360,000
		【雑収益】	410,000
		【特定財源】	0
2024(R6)年度 想定	552,242,000 (円)	【市からの補助金】	0
		【国からの受託事業】	7,500,000
		【県からの受託事業】	18,000,000
		【市からの受託事業】	499,482,000
		【公物管理受託】	0
		【収益事業】	5,490,000
		【会費】	21,360,000
		【雑収益】	410,000
		【特定財源】	0
2025(R7)年度 想定	552,242,000 (円)	【市からの補助金】	0
		【国からの受託事業】	7,500,000
		【県からの受託事業】	18,000,000
		【市からの受託事業】	499,482,000
		【公物管理受託】	0
		【収益事業】	5,490,000
		【会費】	21,360,000
		【雑収益】	410,000
		【特定財源】	0

(2) 支出

年度	総支出	内訳
2020(R2)年度 実績	128,579,989 (円)	【一般管理費】 44,563,123 【情報発信・プロモーション】 20,650,120 【受入環境整備等の着地整備】 60,676,708 【コンテンツ開発】 2,333,502 【マーケティング】 0 【観光イベント開催費】 356,536
2021(R3)年度 見通し	490,519,758 (円)	【一般管理費】 47,620,623 【情報発信・プロモーション】 33,354,437 【受入環境整備等の着地整備】 40,983,239 【コンテンツ開発】 189,164 【マーケティング】 366,772,295 【観光イベント開催費】 1,600,000
2022(R4)年度 想定	521,312,559 (円)	【一般管理費】 68,037,393 【情報発信・プロモーション】 31,615,399 【受入環境整備等の着地整備】 28,915,219 【コンテンツ開発】 4,681,677 【マーケティング】 386,372,956 【観光イベント開催費】 1,689,915
2023(R5)年度 想定	551,069,000 (円)	【一般管理費】 60,579,000 【情報発信・プロモーション】 29,690,000 【受入環境整備等の着地整備】 32,100,000 【コンテンツ開発】 8,500,000 【マーケティング】 417,700,000 【観光イベント開催費】 2,500,000
2024(R6)年度 想定	551,069,000 (円)	【一般管理費】 60,579,000 【情報発信・プロモーション】 29,690,000 【受入環境整備等の着地整備】 32,100,000 【コンテンツ開発】 8,500,000 【マーケティング】 417,700,000 【観光イベント開催費】 2,500,000
2025(R7)年度 想定	551,069,000 (円)	【一般管理費】 60,579,000 【情報発信・プロモーション】 29,690,000 【受入環境整備等の着地整備】 32,100,000 【コンテンツ開発】 8,500,000 【マーケティング】 417,700,000 【観光イベント開催費】 2,500,000

(3) 自律的・継続的な活動に向けた運営資金確保の取組・方針

- ・ 会員からの会費収入の維持に加え、2021年度より受託を開始した宮古島市ふるさと納税の納税額増加による運営事業の収益増などを進める。
- ・ 合わせて、宮古島市における観光目的税の導入協議を開始しており、DMO 運営経費の確立を図りたい。

8. 観光地域づくり法人形成・確立に対する関係都道府県・市町村の意見

宮古島市は、一般社団法人宮古島観光協会を本市における「地域DMO」として登録したく、一般社団法人宮古島観光協会とともに申請いたします。

9. マネジメント・マーケティング対象区域が他の地域連携DMO（県単位以外）や地域DMOと重複する場合の役割分担について（※重複しない場合は記載不要）

（対象区域が重複する他の地域連携DMO、地域DMOはない）

10. 記入担当者連絡先

担当者氏名	砂川靖夫
担当部署名（役職）	副会長・戦略委員長
郵便番号	906-0304
所在地	沖縄県宮古島市 下地字上地472番地39
電話番号（直通）	0980-79-6611
FAX番号	0980-79-6613
E-mail	info@miyako-guide.net

11. 関係する都道府県・市町村担当者連絡先

都道府県・市町村名	宮古島市
担当者氏名	洲崎憲昭
担当部署名（役職）	観光商工スポーツ部観光商工課 観光推進係長
郵便番号	906-8501
所在地	沖縄県宮古島市 平良西里1140
電話番号（直通）	0980-73-2690
FAX番号	0980-73-2692
E-mail	s.noriaki@city.miyakojima.lg.jp

記入日：令和5年 7月31日

基礎情報

【マネジメント・マーケティング対象とする区域】

沖縄県宮古島市

【設立時期】 昭和39(1964)年7月1日

【設立経緯】 ③区域の観光協会がDMOに移行

【代表者】 会長 吉井良介

【マーケティング責任者(CMO)】 専務理事 平山茂治

【財務責任者(CFO)】 事務局長 川満正寛

【職員数】 11人(常勤4人(正職員4人・出向等0人)、非常勤7人)

【主な収入】

事業受託 497百万円、受取会費 20百万円等(2022年度決算)

【総支出】

事業費 453百万円、一般管理費 64百万円(2022年度決算)

【連携する主な事業者】

宮古島商工会議所、伊良部商工会、宮古島美ら海連絡協議会(マリンアクティビティ事業者団体)、宮古島漁業協同組合、池間漁業協同組合、伊良部漁業協同組合、宮古島調理師会、宿泊・交通事業者など

KPI(実績・目標)

※()内は外国人に関するもの。

指標項目		2020 (R2) 年度	2021 (R3) 年度	2022 (R4) 年度	2023 (R5) 年度	2024 (R6) 年度	2025 (R7) 年度
●旅行消費額 (百万円)	目標			47,060 ()	89,168 ()	117,850 ()	150,051 ()
	実績	34,190 (---)	42,419 (---)	77,996 (---)			
●延べ宿泊者数 (千人)	目標			1,463 ()	2,531 ()	3,037 ()	3,644 ()
	実績	1,018 (---)	1,245 (---)	2,137 (---)			
●来訪者満足度 (%)	目標			62% ()	68% ()	68% ()	68% ()
	実績	62% (---)	67% (---)	68% (---)			
●リピーター率 (%)	目標			43% ()	46% ()	46% ()	46% ()
	実績	43% (---)	54% (---)	46% (---)			

戦略

【主なターゲット】

自然環境の保全・再生、島の持続性に対する感度の高い首都圏の20~30代女性

【ターゲットの誘客に向けた取組方針】

自然環境保全・再生の取り組みを進める
島の持続性、生活に対する理解促進を図る
自然に負荷をかけないためのルールづくり、プログラム開発を進める

【観光地域づくりのコンセプト】

「千年先の、未来へ。」
宮古島市が推進する「エコアイランド宮古島」構想のコンセプトと同期を取り施策を進める。

具体的な取組

【観光資源の磨き上げ】

観光庁事業のコーチングを受け、以下を実施

- ①「宮古上布」コンテンツ造成
- ②「宮古馬」コンテンツ造成
- ③「島野菜」食品分析

【受入環境整備】

「宮古島サステナブルツーリズム連絡会」(事務局=観光協会)発足
「宮古島サステナブルツーリズムガイドライン」策定・発表

【情報発信・プロモーション】

観光庁事業のコーチングを受け、観光協会公式サイトを一新
「島を守る」ページを新設し、ガイドライン掲載
島が抱える課題や歴史文化も発信

【その他】

市議会との観光政策意見交換
市観光目的税導入に向けた協議
クルーズ再開に向けた協議

